③　状況に応じた学び合い(協同追究は「個の学び」のための手段)

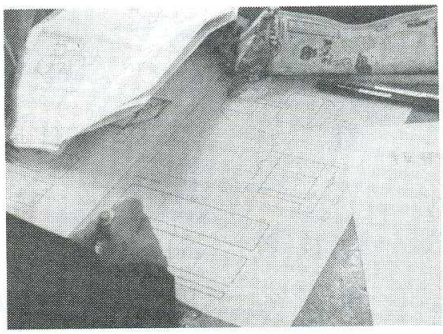
・共に学ぶ良さ…協同でのものづくりを通して互いの良さを認めあえる学習のあり方。

・協同での学びが，最終的には個人の学びへと結びつかせるための指導のあり方。
単なる「教え合い」ではなく，「学び」となるための場面設定を考える。

＜公開授業の中での具体的な取り組み＞

・一人一人の追究が中心であるが，状況によっては情報交換をさせていく。
→個人の追究が全体の追究となるために，あえて個人で取り組ませるような場面も仕組む。

(2)　授業研究会を通して明らかになったこと



①　製図学習場面での成果と課題

○　製図はイメージをより具体化する学習である。

○　製図学習は，自分の考えを明確にし，これからの製作での見通しをや考え方を身に付けさせることを含んでいる。

○　目的意識，相手意識を持たせて取り組むことはとても大事で，「伝える→図を描く，絵を描く」意味も出てくることにつながる。

●　イメージを具現化するための，ダンボールや発泡スチロールを用いた試作の活用。

●　厚みを考える場面での共通の課題等の設定。

●　学びの実感に関わって，学習カードで振り返るときに本時の課題を意識させて書くことや，発表して学びを共有していく(書けない子も友だちの発表を聞いて，今日の学びを意識できる）事が大事である。

●　製図を描いていくための条件は，構造，材質，材料の取り方などの条件がとても多く，段階的に整理していく事が大切である。(学びのステップや構造化)

②　グループ学習で何を学ばせるのか

○　実際の授業では，生徒達はとても真剣に自分の考えを深めたり，個人追究をしていた。

○困ったり，つまずいてもすぐ先生を呼んだり，友だちに頼るのではなく，じっくりとお手本と見比べて考えながら追究する姿が全体の学びにつながる。

●教師の丁寧な個別指導や，個の見取りなどが良くできていたが，個で考える場面と，グループ，全体とどうバランスを取るかが今後の課題である。

4　来年度への課題

本年度の授業公開から，技術・家庭科で利用される製図は，単に構想を図にあらわすことではなく，本教科における表現力として，自分の製作の意図を相手に伝えていくための手段の１つであるということが改めて意識できました。作品への構想をはっきりさせることで，生徒達が明確な目的意識を持って学習に取り組むことができます。ただ作るのではなく，「学び」をつくるためには，構想図や製図の活用がとても大切であることが明らかになりました。

しかし，実際の授業場面の中で，具体的にどのよう学習させていけばよいのか，設計図を作るときの様々な条件を，生徒が混乱せずに追究できる学習計画については今後の課題でといえます。教師側でもすっきりとした授業の構想を持つことが，生徒にとってもわかりやすい授業となるはずです。製図の場面だけでなく，他の単元でも大切な部分であると考え，日頃の実践につながる研究を進めていきたいと思います。